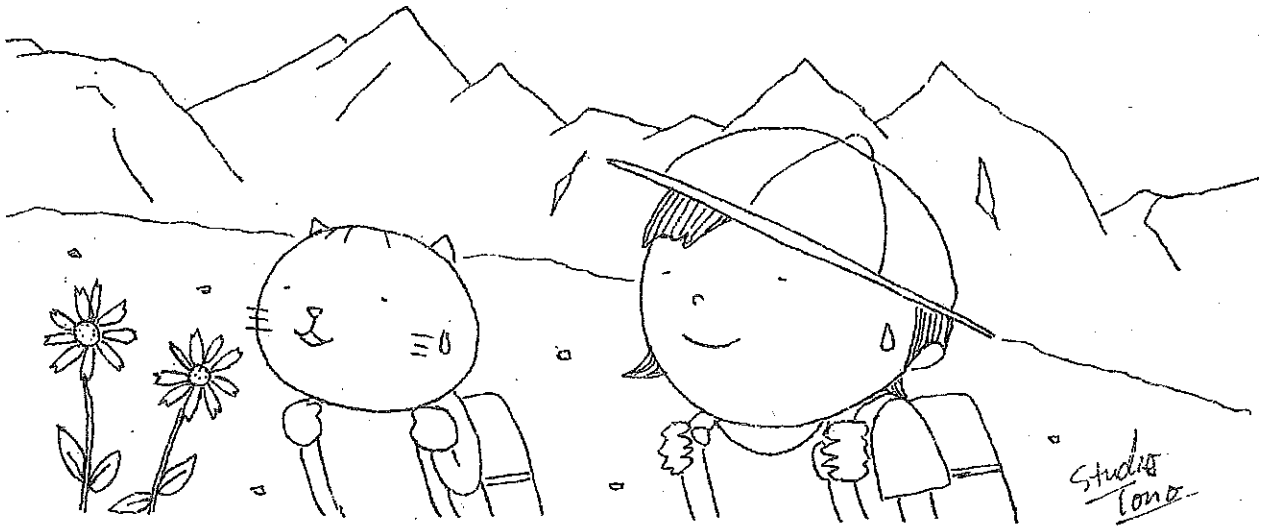
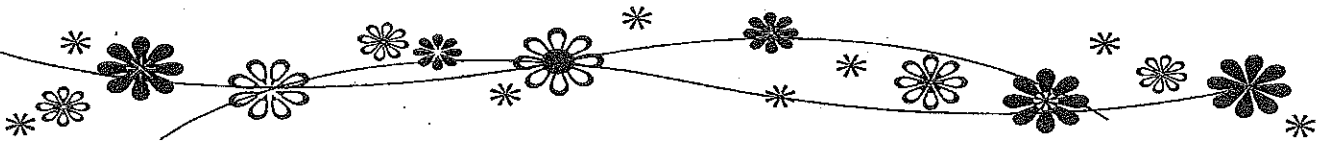


ボランティアグループがつくる福歌山県男女共同参画センターの書評誌

この本よんだ？

～りいふる BOOK プラス～



いま、君たちに一番伝えたいこと

池上彰 著 日本経済新聞出版社 2015年 (K:エッセイ・文学)



この本は、東京工業大学で教鞭をとっている筆者が、最近の大学生の様子や教養をめぐる論議などをエッセイにしたものです。日本経済新聞に連載されていたものを一冊にまとめたもので、「学ぶとはどういうこ

目次を見ると、「生きるということ」、「自分の頭で考えてみよう」、「キャンパスでは今」、「世界は動いている」とあるように、世の中の見方や考え方についてのメッセージを、若者に送りたいという筆者の熱い思いが伝わってくる本です。

また、イスラム国のこと、経済学者宇沢弘文氏のこと、アベノミクスについてなど、時事問題についても大変わかりやすく語られています。

とか」という問題意識が底流にあります。

(花賀)

イタリアのしっぽ

内田洋子 著 集英社 2015年 (K:エッセイ・文学)

イタリアが好き、住んでみたいと思っている人に、その願いをかなえてくれるような素敵な本である。著者は単身イタリアに移住後、三十余年間マスコミ関係の仕事で活躍しながら、現地で出会った人々の物語を書き、出版してきた。本書はその最新作である。

「伝手も所属する組織もなく、言葉は通じてても気は許さず、ネタを追いかけての移動続きで、文字通り一匹狼のような暮らしをしてきて」「ある晩ふいに寂しくなった」著者に、友人から子犬が贈られた。

それからは、パソコンとカメラと携帯電話とこの犬を連れて移動する生活へ。本書はその十余年間に生まれた著書で、エッセイ風の掌編15編からなる。

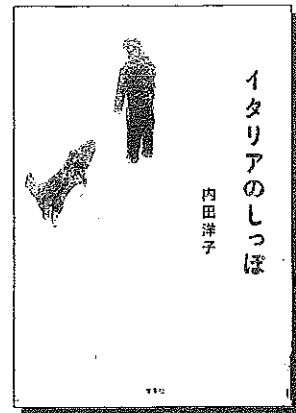
著者の住まいはミラノであるが、時に急に山間の別荘地や、ヴェネツィアに移住したりする。そして、その地の景観、風土、人々を深

く洞察し、主人公の生い立ちや、暮らしぶりを丁寧に陰影深く描く。

就かず離れずの立ち位置にいて出会った人々を描写しているのだが、著者の深い人間愛が底流に流れている。エッセイの域を超えた、上質な小説のようだ。文体も、一文が短めで、吟味された端正な言葉遣いなので読みやすい。落ちのようなしゃれた結びで終わっている編もあり楽しい。

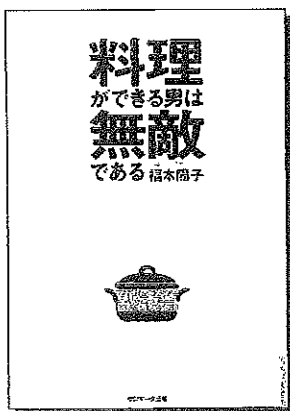
いつしか著者と一体化し、イタリアに暮らせたような満足感にしばらく本を閉じかねた。

(大空)



料理ができる男は無敵である

福本陽子 著 サンマーク出版 2015年 (M:男性学)



男性のみなさん、ご飯をなんとなく食べていませんか？さらに、奥様がせっかく作った料理に「これだけしかないの？」とか、連絡抜きでご飯を食べて帰るなどしていませんか？

か？定年後の家で、三食奥様が料理を作ってくれるのを待っていませんか？そんな方には一度読んで人生を変えていただきたい本です。

著者は予約の取れない男性向け料理教室「メンズキッチン」で20代から70代までの生徒を指導する男子料理研究家です。料理をしたら、どんな能力が身に付くか、まわりがどう変わるのか、自分がどう変わるのかを明確にまとめてくれています。実際、人生が変わった、仕事のやり方が変わった、家族との関係が変わったなどの経験談を交えて書かれていますので、すこしは興味が湧くかと思います。この本を読んで、仕事もできて、プライベートでも頼られる「無敵の男」になってみませんか。

(か)

それをお金で買いますか 市場主義の限界

マイケル・サンデル 著 鬼澤忍 訳 早川書房 2014年 (B:労働・法律)

現代はほとんどの物がお金で買える時代。市場主義はわたしたちの生活の隅々まで支配するようになってきている。著者のマイケル・サンデルは政治哲学の教授。著者は「そろそろ、こんな生き方がしたいのかどうか問うべき時がきている」と警告する。市場主義を批判するキーワードは2つ。「公正」と「腐敗」である。

今やお金を払えば「順番」を買うこともできるし、野球場の「命名権」を買うこともできる。金銭的なインセンティブによって人々の動機付けを行うという政策も当たり前になってきている。

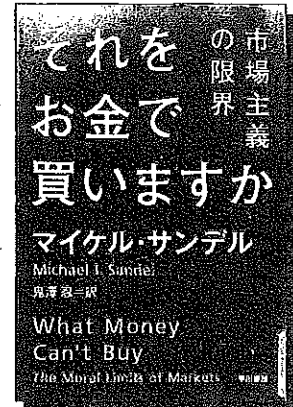
例えば、絶滅危惧種であるクロサイの保護のため、南アフリカの当局者はこんな手段をとった。民間の牧場主に、限られた数のクロサイを撃ち殺す権利を、かなりの高額でハンターに販売することを認めたのである。このことにより牧場主は資金を得てサイの保護・繁殖のインセンティブを持ち、富裕層のハン

ターは狩猟の満足を得る。結果、クロサイの頭数は徐々に増えているという。経済学的な論理からすると完璧なこの方法には、しかし、サイの殺戮という道徳的な問題がある。

市場化が進んだ世の中は、裕福であることがより重要になり、貧しい者が食べ物にされるという「公正」の問題をもたらす。また、クロサイの例のように、市場が道徳的な「腐敗」を招くこともある。ほかにも様々な金銭的取引の例をあげ、深い考察を加えていく。

市場主義的な考え方にどっぷりと浸かっている現代人に、本書はあらためて考え抜くことの重要性を教えている。

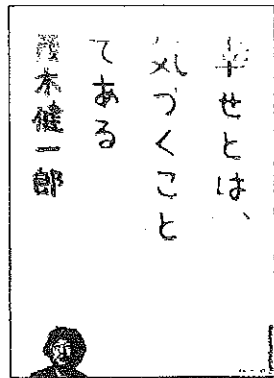
(0.S)



幸せとは、気づくことである

茂木健一郎 著 プレジデント社 2015年 (E:こころ・癒やし)

本書は、雑誌『プレジデント』に連載されている「世界の発想法」をまとめたものである。脳科学者である著者が、脳について理解しやすく説明しながら、気づくことによって自分だけの個性と出会い、幸せをつかむ



方法を伝授してくれる素晴らしい一冊である。本書の中に、テーマに沿った発想の転換があり、なるほどと納得させられるものが多々出てくる。ストレスをなくす秘訣、数字で悩みを解決する方法、脳のアンチエイジング法など、今すぐ知って得する情報が本書にある。

ぜひ、読んでみて幸せになって下さい。

(K)



折り梅

松井久子 監督 原田美枝子、吉行和子他出演 2002年 (P:AV資料)

この映画は、松井監督が一作目「ユキエ」の上演会に来ていて出会った、小菅もと子さんの「忘れても、しあわせ」という本をもとに脚本を作り、監督した二作目の作品である。

突然痴呆症になった義母を夫がひきとると決めたのはいいが、実際介護するのは嫁。社会との関係を断ちたくなくて、どんなにしんどくてもパートはやめたくないとがんばる。はじめは、義母の行動が理解できず、おかしくなりそうなぐらい追い詰められる嫁。パート仲間の援助やいろいろな社会資源を知っていくとともに、絵を描くということに出合い義母はその人らしさをとりもどしていく。夫や子供たちの協力も得られるようになっていく。

舞台は愛知県豊明市だが、義母が子ども

の頃いた場所へ帰りたいと、和歌山県みなべ町がロケ地としてでてくる。満開の梅が咲いているシーンは和歌山の梅ではないらしいが。

そして作品だけでなく、このDVDについている特典映像、監督による制作秘話もぜひ観て頂きたい。この映画ができるのに、どれだけ多くの人が動いたのかがよくわかる。

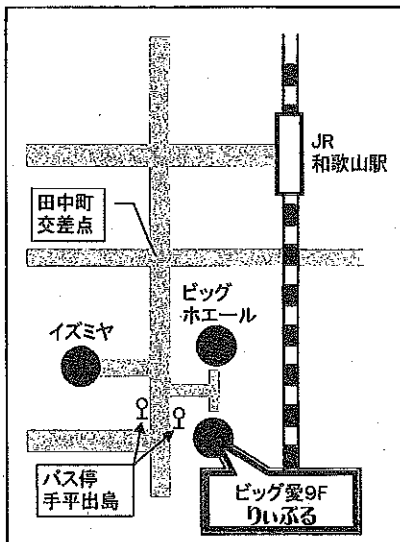
観客動員数は100万人を超え、今でも上映会が行われている作品である。



(カ)

※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV資料 Q:コミック R:NPOサポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第12号 (2016年8月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】

りいぶるの図書室には、数こそ少ないけど、男女共同参画に関する厳選されたDVDがあります。この書評誌は、タイトルを「この本よんだ?」とし、今まで本のみを紹介してきましたが、今回は更に図書室の魅力を伝えるために、初めてDVDを紹介してみました。マークはイラスト担当のTONOさんにお願しました。

E-mail libreplus@yahoo.co.jp

ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。